

旅行取扱状況の概観（平成17年4月分）

海外旅行の取り扱いをみると、団体旅行は学生団体の取り扱いが低調であったが、一般団体がイベント等の取り扱いで大きく伸びたため、前年実績を大きく上回り3ヶ月連続での前年比プラスと好調を継続。個人旅行はホリデイがゴールデンウィークの需要を取り込み、大きく前年実績を上回った。これで3ヶ月連続での前年実績プラスと好調に推移している。個人旅行も堅調な取り扱いで前年実績を超え、4ヶ月連続の前年比プラスと安定している。各商品とも前年実績を上回った結果、海外旅行合計は前年比114.4%と2桁増で前年実績を上回り、3ヶ月連続での前年実績オーバーとなった。

国内旅行の取扱額をみると、団体旅行は一般団体が取り扱い件数を増やし昨年12月以来の前年比プラスとなったが、学生団体が取り扱いが低調のため合計では前年実績に届かず、4ヶ月連続の前年実績割れと伸び悩んでいる。個人旅行はメイトが前年実績を下回り、（これは前年実績が計上基準変更による異常値になっているため、販売の実勢としては107%程度である。）個人旅行も愛知万博入場券の好調、航空券の前年実績確保等はあったが、取扱構成比の高いJR券、宿泊券の低調により前年実績には達しなかった。この結果、国内旅行合計は、前年比94.5%と6ヶ月ぶりに前年実績を下回る結果に終わった。

外人旅行は、大型団体の取り扱い、およびFITの取り扱い好調により前年比160.7%と前年実績を大きく上回り、5ヶ月連続での前年比プラスと好調に推移した。

4月の総取扱額は、国内旅行は低調であったが、海外旅行、外人旅行の好調により、前年比101.4%と前年実績を上回り、4ヶ月連続での前年比プラスとなった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体では、イベント関係の取扱いは好調であったが、その他団体は伸び悩みの傾向にある。学生団体は、修学旅行および海外研修等の取り扱いが低調で、14ヶ月ぶりに前年実績を下回った。

方面別の取り扱いでは、オセアニアを除く各方面が好調で、なかでもアジアとミクロネシアの取り扱いが目立って好調であった。

(2) 個人旅行

ホリデイは依然として取り扱い好調で、前年比119.4%と2桁増で前年実績を上回った。

方面別取扱いは、韓国、台湾、香港、ヨーロッパが好調であった。タイ(前年比63%)は依然低調である。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体はイベント関係の取り扱いが大きく増加したため、久しぶりに前年実績を上回った。学生団体は、修学旅行、校外学習の取り扱いが減少したため前年実績に達しなかった。

(2) 個人旅行

メイトは前年実績が計上基準変更による異常値になっているため、前年比95.7%と前年実績に届かず4ヶ月ぶりに前年比マイナスとなったが、販売の実勢は107%程度であった。

方面別では、前月続いて沖縄が好調であった。

(以上)